





1 主屋裏にかつてあった建物の平面表示



2 歌川広重の浮世絵を模した灯籠とソテツ



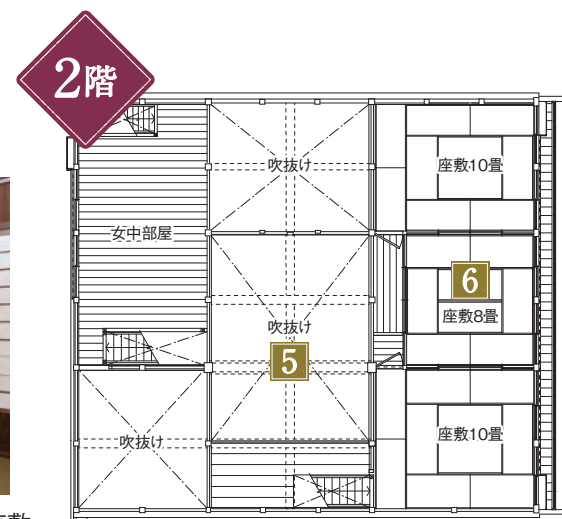
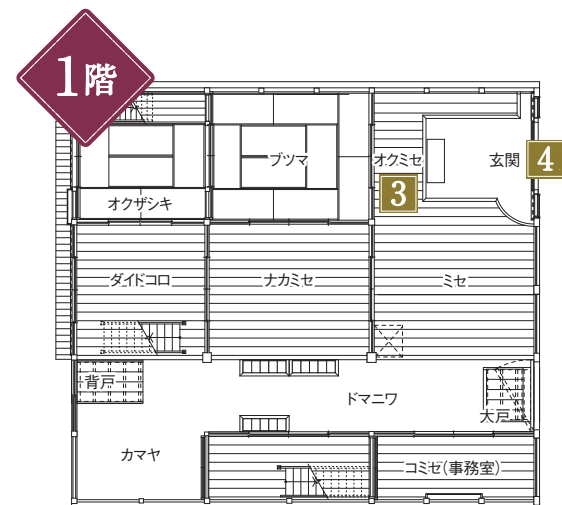
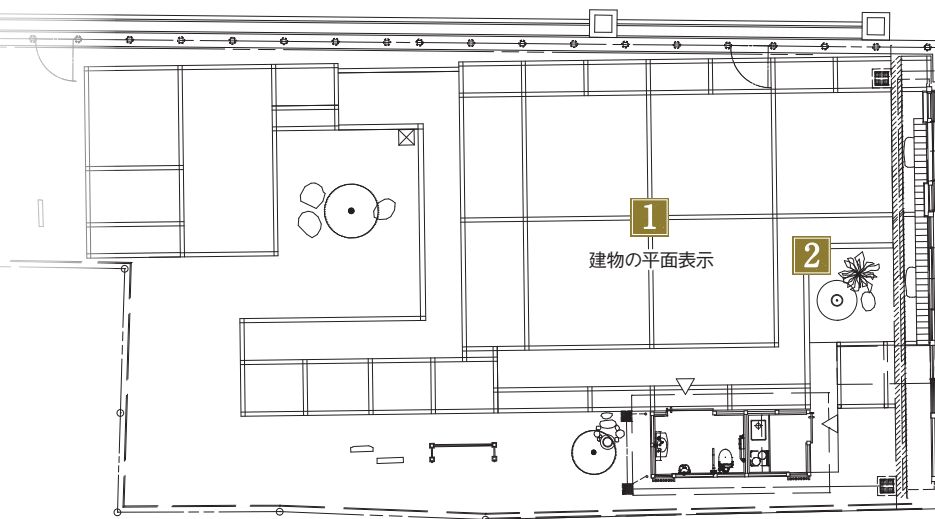
3 【一階】曲線を描く框(かまち)と式台のある玄関



4 唐草文が彫刻された虹梁(こうりょう)

大橋屋建物は、文化六年(一八〇九)の赤坂宿大火以降に建てられたと考えられています。江戸時代の屋号は「鯉屋」で、一般の旅人が宿泊する旅籠屋でした。明治十一年(一八七八)の明治天皇の北陸東海巡幸では行在所として利用されたこともあり、その後、所有者は近藤家から高田家、青木家と変わり、屋号も「大橋屋」と改められました。平成二十七年(二〇二五)に青木家より建物の寄附を受けたことを契機に、平成二十九・三十年で江戸時代の旅籠建物の姿を再現することを基本とした改修復元工事を行いました。

## 大橋屋(旧旅籠鯉屋)



## 豊川市指定文化財 大橋屋(旧旅籠鯉屋)

【指定年月日】昭和52年3月1日 【構造形式】木造2階建 切妻造 棧瓦葺  
【延床面積】1階145.54㎡ 2階86.53㎡

改修前



5 解体調査に合わせてナカミセの梁上にあつた6つの表の中身を確認したところ、江戸時代後期から昭和時代までの約1600点の御札が納められていました。



6 【二階】格子越しに街道を見下ろせる座敷